

大好きな家族のこと、みんなに教えたい!

第13回

# 家族 の きずな 2022

受賞作品集

大きく育てていこう、かけがえのない“家族のきずな”

主催／広島県モラロジー協議会

後援／広島市教育委員会・広島市PTA協議会・広島市退職校長会・中国新聞社・中国放送・広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送  
発行／広島県モラロジー協議会 〒733-0002 広島市西区楠木町1-12-7-202 TEL/FAX:082-291-0025 E-mail:kkhiroshima1034@gmail.com

# 家族 の きずな

2022年受賞作品集

## 目次

2	あいさつ
3	講評
4	選考・審査員
5	優秀賞作品
18	優良賞作品
38	参加学校名
39	モラロジーとは
40	企業協賛社
41	個人協賛者

◆受賞作品は原文を尊重し、なるべく訂正を加えず掲載しています。



## 主催者あいさつ



広島県モラロジー協議会は、私たちが生活する地域や社会が、より暮らしやすく、笑顔あふれる街になるように、人間性、道徳性を育てるさまざまな教育活動に取り組んでいます。

その活動のひとつである「家族のきずなエッセイ募集」事業は、今年で第13回目を迎え広島市内の小学校77校から5,492篇の作品が寄せられました。これは、ひとえにご応募くださいました児童や保護者の皆様、また、担任の先生をはじめ学校や広島市教育委員会の関係者の皆様、さらに、選考に携わっていただいた選考委員の皆様のお力添えの賜物と深謝申し上げます。

平成30年度には小学校で、翌31年度からは中学校で「特別の教科 道徳」が実施され、本格的に道徳教育がスタートしました。この「エッセイ募集」に応募する児童は作品づくりに取り組む過程で、改めて両親や兄弟姉妹、祖父母のみならず、祖先とのきずなの大切さや命の尊さ、生きることの素晴らしさなど、さまざまな気づきを得ることでしょう。このことが児童の心の成長だけでなく、学校における道徳教育とよりよい家庭づくりのための一助になるものと確信しております。また、先生やご家族の皆様にとって、児童の気持ちを理解したり共有したりするよい機会になると考え、今後も本事業の継続のために尽力して参ります。

末筆ではございますが、後援をいただきました広島市教育委員会、広島市PTA協議会、広島市退職校長会、株式会社中国新聞社、株式会社中国放送、広島テレビ放送株式会社、株式会社広島ホームテレビ、株式会社テレビ新広島、広島エフエム放送株式会社をはじめ、運営にご協力いただきました企業ならびに個人の皆様に厚く御礼申し上げます。

広島県モラロジー協議会 会長 中川 齋



## 「家族のきずなエッセイ」の選考を終えて

子どもたちの作品を読んでいると、家族から多くのことを学んでいることに気づかされます。しかも学んでいるのは、単なる知識ではなく、いわば生き方とも言うべきものです。今年度の12篇の優秀賞の中にもそのような学びが記されています。いくつか例を引くことにしましょう。

田村歩優実さんの「お母さんのいない夜」は、小児科医の母親が夜勤をする理由を聞いて作者が驚いたという作品です。作者は、母親の夜勤をお金を稼ぐ手段だと考えていましたが、母親によれば、自分の子どもたちも夜間に他の医師にかかることがあるのだから、母親も他の子どもたちのために夜勤を頑張っているというのでした。それ以来、夜勤の夜は「見知らぬ子供たちを介して私たちとお母さんがつながる夜」になりました。

亡き母親から学んだことを記しているのは、重松花奈さんの「お母さんからの愛」という作品です。作者は、偶然、アルバムの中に母親が記録していたメッセージを見つけます。母親は、病気のため帝王切開で生まれた作者に「生まれてくれてありがとう」と綴っていました。作者は、こうした言葉を読んで、亡き母親の愛情の深さに涙しながら、自分が様々な人に助けられて生きていることに思い至るのです。

木本菜花さんの「無意識に二つ」という作品では、5歳年下の弟との関わりが書かれていました。いつも「お姉ちゃん」だからと我慢させられ、弟を「うっとおいしい」と思っている作者は、アイスやお菓子を買うとき、無意識のうちに弟の分も買ってしまいます。その理由を考えた作者は、弟が「うっとうしいけど、いとおいしい」存在なのだ気づきます。こうしたアンビバレントな思いが兄弟の本質なのかもしれません。

曾祖父母から学んだという作品もあります。鈴木幸輝くんの「思い出のきずな」では、認知症を患い、作者のことを忘れてしまった曾祖母が、作者の小さい頃の写真を手にしてひ孫自慢をするという内容でした。その情景を目にして、作者は、認知症の曾祖母とのきずなは今なお思い出を通して結ばれていることを学びます。そして、谷本尊彩さんの「大好きな私のひいおじいちゃん」では、去年他界した大好きな曾祖父のことが書かれていました。曾祖父との別れを通して作者が学んだのは、「別れはいつくるかわからないから、今大切な人との時間を大事にする」ということでした。

このように、子どもたちは家族から様々な機会を通して様々なことを学びます。この学びは学校等での学びとは違います。家族の中でしか得られない、家族の中ではじめて血肉となるような学びです。子どもたちは家族との関わりの中で何かを「学び」、その学びとともに生きることを意味をより深く豊かにしているように思えます。子どもたちの作品によって、改めて家族の役割の大きさを教えられる思いがしました。感謝するばかりです。

選考委員長 越智 貢



令和4年度

## 「家族のきずなエッセイ」作品選考委員会

選考日時／令和4年10月22日(土)14:00~16:00

選考場所／広島鯉城モラロジー事務所 会議室

委員長

**越智 貢**

広島大学名誉教授

委員

**黒田 真司**

広島市教育委員会 学校教育部指導第一課主任指導主事

委員

**中村 哲夫**

広島市PTA協議会 副会長

委員

**柿木 澄男**

広島市退職校長会

委員

**桑島 美帆**

中国新聞社 報道センター文化担当記者

委員

**中川 喜直**

(公財)モラロジー道德教育財団中国ブロック 部長

委員

**中川 斎**

広島県モラロジー協議会 会長

委員

**宮本 伊知郎**

エッセイ募集事業 実行委員長



予備選考委員

**光原達夫**

**柿木澄男**

**正傳彰子**

**高野和博**

**石田秀孝**

**平岡満恵**

広島市退職校長会

広島市退職校長会の6名に予備選考委員としてご尽力いただきました。  
ありがとうございました。



## 優秀賞

広島市長賞	重松 花奈	広島市立日浦小学校
広島市教育委員会賞	新谷 七虹	広島市立口田東小学校
広島市PTA協議会賞	別府 花菜	広島市立毘沙門台小学校
広島市退職校長会賞	鈴木 幸輝	広島市立安東小学校
中国新聞社賞	田村 歩優実	広島市立比治山小学校
中国放送賞	木本 菜花	広島市立宇品東小学校
広島テレビ放送賞	木村 嘉乃	広島市立長東小学校
広島ホームテレビ賞	杉岡 愛笑	広島市立長東小学校
テレビ新広島賞	青野 凌久	広島市立みどり坂小学校
広島エフエム放送賞	松木 咲羽	広島市立千田小学校
モラロジー道德教育財団賞	谷本 苺彩	広島市立楽々園小学校
広島県モラロジー協議会賞	内山 蘭	学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校



# お母さんからの愛

広島市立日浦小学校 重松 花奈

私のお母さんは、私が小学一年生のときに亡くなりました。でも、そんなお母さんがのこしていた、メッセージがあったのです。

ある日、私が赤ちゃんのときのアルバムを見つけました。開いてみると、母の字でこう書いてありました。「低体重、早期産。乳び胸と全身むくみあり。三十二週で帝王切開により出産し、治療を優先することにしました。小さいのに必死で息をしようとしている姿に涙が止まらなかったよ。生きてくれてありがとう。」「胎児胸水と水腫を乗り越えて、約二ヶ月早い誕生になったけど、無事に生まれてくれて本当に嬉しかった。ありがとう花奈。生まれてすぐNICUで治療沢山頑張ったね。痛かったね。元気になってくれて本当に本当によかった！！。」と書いてありました。気付いたとき、私の目からは涙があふれていました。私も、出来たならお母さんに手術をさせて、長生きしてほしいです。でも、痛い思いをしながら、私の治療を優先してくれたお母さん。お母さんがいたからこそ、今の自分がいます。私の恩人のお母さん、ありがとう。

こうして、色々な人に助けられながら今も生きています。お母さん、今はもういないけど、どこかで幸せに暮らしてね。



# 私の母

広島市立口田東小学校 新谷 七虹

去年の冬、私の母が病気になった。

転居してすぐに見つかったそうだが、私が知ったのは一か月後のことだった。父がいつも以上に家事をするので、今までとちがうなと思いつつながら過ごしていたのを覚えている。

初めて話を聞いた時、「がん」という言葉で、もう母は死ぬのだろうと思い、頭の中が真っ白になった。一年前に祖父ががんで亡くなっていたからだ。治るから大丈夫と言われても、私にうそをついているのではと疑ったりもした。悲しい気持ちや不安な気持ちは、母にはもちろん、父にも友達にも言えなかった。担任の先生と話せた時には、話を聞いてもらえたことがうれしくて涙が出そうになった。夜寝る時に、気づかれないように布団の中で泣いたこともあった。

母はちりょう中に体調が悪くなることがあったが、自分がどれだけしんどくても一番に私たち家族のことを考えてくれていた。そんな母をすごいと思うし、感謝している。母の手術が終わり、退院する日はうれしくて急いで学校から帰った。元気な姿にほっとした。

人はいつ死んでしまうか誰にも分からない。だからこそ、この一瞬一瞬をこれからも大切に生きていきたい。





# 命の大切さ

広島市立毘沙門台小学校 別府 花菜

私には忘れられない話がある。お父さんから聞いたひいおじいちゃん  
の戦争のころの話だ。私は、その話のおかげで命の大切さを実感す  
ることができた。

夏のある日、ひいおじいちゃんは、火事にあったそうだ。ひいおじ  
いちゃんは、水をかけようとして、ホースの近くにいた人に「水を出  
してくれ。」と、たのんだ。その時、ドカン。ホースの近くにばくだん  
が落ちて、その人はなくなってしまったのだ。私は考えた。もしも、そ  
のばくだんのせいで、ひいおじいちゃんがなくなっていたら……。少  
しこわくなってきた。その後、お父さんは言った。「もしも、ひいおじ  
いちゃんがなくなった人と逆の位置にいたら、お父さんは、生まれてい  
ない。もちろんその先はなかったかもしれないね。」と。私は、はっと  
した。確かに、一人でもかけてしまっていたら、命は続いていない。ひ  
いおじいちゃん、ひいおばあちゃんがいたから、おじいちゃん、おばあ  
ちゃんがいる。おじいちゃん、おばあちゃんがいるから、お父さん、お  
母さんがいる。お父さん、お母さんがいるから、私がいる。そういう風  
に大きな奇跡が積み重なって、私がいる。

次は、私が命を受けついでいく番だ。



# 思い出のきずな

広島市立安東小学校 鈴木 幸輝

ぼくのひいばあちゃんは、よく笑いやさしくおっちょこちょいでたのしい人でした。でも、数年前から認知症になりました。あんなにかわいがってくれたのに、ぼくのことをわからなくなってしまいました。会いに行っても、「こりゃ、どこの子かいの。」と言われました。ぼくは、冗談だと思っていたけど、本当にぼくのことをわからないと気付いて、とても悲しい気持ちになりました。いつ行ってもぼくのことをわからなくなり、会いに行くことがいやだ思うようになっていました。

でもある日、会いに行った時、ひいばあちゃんが数枚の写真を見せてくれました。その写真は、ぼくの赤ちゃんの時から写真でした。

「これは、うちのひ孫。男前じゃろ。工作が好きなんよ。よお食べて大きいんよ。」

とうれしそうにたくさんの思い出を話してくれました。ぼくは、びっくりしました。認知症になっても、今までの思い出は残っていて、大切に思ってくれているんだと思うと涙が止まりませんでした。ぼくは会いに行きたくないと思ってしまったことをこうかいしました。認知症でもきずなは結ばれています。これからはもっとひいばあちゃんに会いに行きます。



# お母さんのいない夜

広島市立比治山小学校 田村 歩優実

私のお母さんは小児科の勤務医です。一週間に一、二回は夜中の零時過ぎに帰ってきたり、夜遅くに仕事に出かけて翌日帰ってきたりします。

そんな日はいつもより大変で、妹が「お母さんがいないからさみしい。」と言って泣いたり、お母さんに「仕事に行かないでほしい。」と言って駄々をこねたりします。そして私も少し不安になります。

それでもお母さんは「これがお母さんの仕事だから。」と言って、少し困った様な泣きそうな顔をして仕事に出かけて行きます。そして、「お母さんはあなたたち二人が病気やけがで困った時に、他のお医者さんにきちんと診てもらいたい。だから、お母さんは他所の子どもたちを誠意を持って診ているんだよ。『情は人のためならず』だからね。」と言います。

私は今まで、お母さんは私たち二人を育てるために頑張ってお金を稼いでいるのだとばかり思っていたのですが、そればかりではないことを知っておどろきました。

お母さんがいない夜は、見も知らぬ子供たちを介して私たちとお母さんがつながる夜です。



# 無意識に二つ

広島市立宇品東小学校 木本 菜花

私には、五さい下の幼稚園に通う弟がいる。わんぱくでやんちゃでいつもうるさい。最近は、少しずつ家の事もできるようにはなってきたけど、散らかっている部屋の片付けや食器を下げたりするなどお姉ちゃんだからと仕上げはいつも私。お姉ちゃんに面どうを見てもらおうと思って生まれる間かくは空けたのよと親は言うけど、それってどうなの。お姉ちゃんって損だなと思うことがあっても、そうは言ってもなんだかんだ一しょに折り紙を折ったり、ゲームをしたり楽しんでいる自分もいる。

私はご飯のあとにデザートを取りにいくとアイスを二つ手にとる。スーパーに買い物に行く時も同じおかしを二つカートに入れる。そのうちの一つを「はいっ」と弟にわたす。私の中で弟は無意識ながらも当り前の存在。

そんな姿を見てきたからか弟も幼稚園の遠足から帰ってくると二つにぎりしめているドングリのうちの一つを私にわたしてくる。親と出かけて帰ってきたときもおそろいの物を買ってきてうれしそうに一つわたしてくれる。

無意識にいつもおたがいを思っている。  
うっとうしいけどいとおしい。けんかもするけどこれからもよろしくね。



# お父さんとの思い出

広島市立長束小学校 木村 嘉乃

私には、五才からお父さんと手をつないで保育園まで歩いて通った思い出があります。

二つ上の姉がいる時は、車で通っていました。姉が小学校に上がると、私とお父さんは二人で歩いて保育園に行くようになりました。車だと5分で行けて、お父さんもそのまま仕事へ行けるのに、歩いて通いました。歩くと十分はかかる道のりを、雨の日はかさを差して行きました。手をつないでゆっくりと話ながら歩きました。寒い冬は手をつないであたたまりながら、夏は汗をかきながら、しりとりや友達の話をしました。歩いている時は、ほっとして安心できました。お父さんと話をすることが楽しかったです。

今は小学校に登校班で行っています。お父さんと手をつないで行くことはなくなりました。お父さんと手をつなぐことがはずかしいくらいです。だけど、やっぱり今でもあの時にもどりたいと感じます。

私は、手をつないでくれたお父さんが大好きです。今でもいろいろな話をしてくれるお父さんが好きです。

お父さん、ありがとう！



# 「ごめんなさい。」

広島市立長束小学校 杉岡 愛笑

「明日から、一人で帰りなさい！」おばあちゃんが怒った。

塾の夏期講習から帰ってだらだらし、午後の習い事をさぼろうとしていた。妹も連れて行かなくてはいけないのに——。妹は、まだ行かないのならと、遊びに行ってしまった。それで、おばあちゃんの怒りが爆発したのだ。

夏休み、お母さんは仕事。だからおばあちゃんが、塾に行く私を毎日送迎してくれる。塾が終わるのはお昼。暑い中を歩いて迎えに来てくれる。駅は近いし本当は一人で平気だけど、少しでも早くおばあちゃん的笑顔を見てほっとしたくて迎えに来てもらっていた。

怒っているおばあちゃんに、私は素直にごめんなさいと言えなかった。そこに妹が帰って来た。妹と二人、「ものを習う姿勢」についてお説教された。妹は、「お姉ちゃんのせいで怒られた」とにらんできた。妹はいつもこうだ。私は、妹なんか大嫌いだと思った。

次の日、いつもの電車に乗って帰った。降りると、おばあちゃんがちゃんといた。「みーちゃんが、『お姉ちゃんを迎えに行っておいで。私だったら迎えに来てほしい。』と言ったよ。かわいいね。」と笑顔で言った。私は、「昨日はごめんなさい。」と、やっと、言えた。



# 新しい命

広島市立みどり坂小学校 青野 凌久

ぼくには、小学二年生の弟がいて、お父さんと、お母さんの四人家族だ。これからも、ずっと四人家族だと思っていた。

そんなある日、お母さんから一枚の写真を見せられた。ぼくには、それがなんなのか分からなかった。お母さんに、「これは何？」と聞くと、「赤ちゃんだよ。」と言われた。ぼくはとてもおどろいたと同時にすごくうれしかった。

それから毎日、ぼくはお風呂そうじをしたり、お皿を洗ったり、お手伝いをたくさんしている。お手伝いをたくさんすると、お母さんがいつも、「ありがとう。」と言ってくれる。

後四ヶ月で新しい命が生まれてくる。ぼくは、赤ちゃんが生まれてきたら、たくさん話しかけたり、だっこしたり色んなことをしてあげたいと思っている。

もちろん、おなかの中にいる赤ちゃんにも家族みんなで毎日、「元気ですか？」や、「兄ちゃんですよ。」と話しかけている。

家族全員、赤ちゃんが生まれてくるのを、楽しみに待っているのを見て、ぼくもすごくわくわくしてきた。

元気に生まれてきてね。



# 手わたす元気

広島市立千田小学校 松木 咲羽

小さい時おじいちゃんの家に行くと、いつもおじいちゃんが私とお姉ちゃんをお風呂に入れてくれていました。おじいちゃんは私をだいて湯ぶねに入っていました。入るとお風呂から湯があふれ出ていました。それが面白かったことを覚えていて、今でも自分で入る時に思い出すことがあります。お風呂から出た後はおばあちゃんがかみをかわかしてくれて、後から出てきたおじいちゃんはいつもお姉ちゃんと私に一つずつチーズをくれました。風呂上がりのチーズはおいしかったです。私が三才になる前におじいちゃんは亡くなってしまったので、いっしょに入れなくなったけれど、思い出は心に残っています。

それからはおばあちゃんの家に行くと、おじいちゃんのお仏だんの前に、天国でも元気でいてほしいという気持ちで手紙を書いて置いています。一人になったおばあちゃんには一人でも長生きしてほしいという気持ちで、元気の出る箱という箱を作り手紙を入れています。おばあちゃんはそれを読むとよろこんでくれます。その箱がいっぱいになるくらい書き続けて、さみしくないようにしてあげたい。お仏だんのおじいちゃんは、やさしく私を見守ってくれているように思えました。





# 大好きな 私のひいおじいちゃん

広島市立楽々園小学校 谷本 苺彩

去年の春、ひいおじいちゃんが亡くなりました。私はひいおじいちゃんが大好きでした。ひいおじいちゃんとの写真を見ると、たくさんの思い出を思い出します。水族館や旅行に連れて行ってもらった事や、魚釣りに行った事。にこにこ優しい笑顔で私の名前を呼んで抱きしめてくれた事。心臓が悪かったひいおじいちゃんは、時々しんどそうにしながらも

「大丈夫だよ」と言い、私や弟の為に色々な所へ連れて行ってくれました。数えきれない程の優しい思い出と、ひいおじいちゃんの温かさを今でもしっかり覚えています。ひいおじいちゃんとの別れは突然で、まだまだ一緒にいられると思っていた私は、とてもショックでした。もっとひいおじいちゃんに会いたかった、もっと大好きだよと伝えたかったのに、もう叶う事はありません。お寺の方が「出会いがあれば、別れは必ずある。大切な出会い程、別れは辛くなる」と言われていました。別れはいつくるか分からないから、今大切な人との時間を大事にしていきたいと思いました。ひいおじいちゃんとはもう会えないけれど、思い出を大切にしようと思います。そして、いつか私に子供や孫が出来た時、私もひいおじいちゃんのような温かい存在でありたいなと思いました。



# お母さんからの 大切なお弁当

学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校 内山 蘭

私の小学校は給食はないので、毎日お弁当を持って行きます。お母さんは仕事をしているので、とても忙しそうですが、毎朝早起きをしてお弁当を作ってくれます。

私は、一年生の時に体が小さくて、食べるのが人よりもおそかったので、お弁当の時間が好きではありませんでした。だけど、お母さんは私が楽しくランチタイムを過ごせるように、かわいいキャラクターのお弁当を作ってくれました。私は毎日どんなお弁当か楽しみで、お弁当の時間が好きになりました。今思うと、お母さんは、おかずを食べやすい大きさにしていたり、栄養のバランスを考えて、色とりどりのお弁当を作っている事が分かります。当たり前のように毎日食べているけれど、お母さんは私のために色々考えながら作ってくれているのだと思います。

お弁当は注文もできるのに、どうして毎日がんばって作ってくれるのか聞いてみると、「お母さんも、子どものころにお弁当で、おばあちゃんからの愛情を感じる事ができたから、お弁当には、お母さんの愛情がたっぷりつめてあるのよ。」とうれしそうに話してくれました。私は、その話を聞いて、ますますお母さんのお弁当が大好きになりました。



## たん生日プレゼント

広島市立毘沙門台小学校 松本 理子

私は、毎年お母さんからたん生日プレゼントをもらっています。だから今年は、私からお母さんにたん生日プレゼントをわたす計画を立てました。

まず、お母さんのほしい物を考えました。はじめは、「お母さんは、作ることが好きだから、何か作ることができるキットがいいかな」と、思いました。しかし、私は、「使ってもらいたい」と思ったので、お母さんがいつも使っているものを、観察してみることにしました。すると、すぐに見つかりました。それは、エプロンです。そのエプロンは、ポロくなっていて、よごれていたもので、それがい

いと思いました。

次の日、おばあちゃんと、エプロンを買に行きました。お母さんは、水色が好きだから、水色のしましまのエプロンを買うことにしました。おこづかいで買って、その後、ラッピングをしてもらいました。

お母さんのたん生日の夜、私は、「たん生日おめでとう。」と言って、プレゼントをわたしました。お母さんは、とても喜んで、私をだきしめてくれました。

次の日の夜ご飯、私があげたエプロンを着て私の好きなハンバーグを作ってくれました。



## ごめんね 大好き

広島市立千田小学校 山下 凜子

私には、中学一年生の姉がいます。私と姉は、意見が違ったりいたずらをしたり、ささいなことでもよくけんかをします。

昔、姉と私で大げんかをして、私がおこって真反対の部屋に移ったことがありました。けんかの理由は覚えていないけど、大した事ではなかったと思います。しばらくして、ろう下で物音がしたので、のぞいてみると紙とペンが置いてありました。そのペンは、ペンで何か書いた後にペン先のライトで照らすと書いたものが見えるペンだったので、紙を照らすと「ごめんね 大好き」と書いてありました。私は、読んだ時にすごくうれしくなり

ました。いつもけんかばかりの姉が、けんかしてもあやまってくれて、大好きと言ってくれたからです。私は、その紙に返事を書いて、姉のいる部屋のドアの前に置いておきました。

私達は、昔から毎日のようにけんかをしています。けんかの元は意見のすれちがいが多いです。でも、自分の意見をおしつけてゆう先しているからけんかが起きるので、姉の意見も聞くようにしたいです。姉ともっと仲良くなって、姉の相談に乗ったりして姉のことを少しでも助けてあげたいです。



## ひいばあばとのお別れ

広島市立中野小学校 谷村 健太郎

「けんちゃん、よう来たねえ。」学校帰りにひいばあばの家に行くといつもぼくをなでてくださいとおかしをいっばいくれた。ぼくはひいばあばが大好きだった。

しかし、ひいばあばはある日とつ然、なくなった。顔を見たとき、本当にねむっているようで、実感がわかなかった。実感がわき始めたのはじいじがおそう式のあいさつで泣いた時だった。ぼくは今までじいじが泣いたのを見たことが無かったのでびっくりし、それだけに悲しみが伝わってきた。そして、他の人も泣いていた。ひいばあばはみんなに愛されていたんだな、すごいなと思った。

火そうされるようになって、またびっくりすることがあった。コロナ感せん防止対策のため、ひいばあばの顔を見て最後の最後にお別れを言う事が出来なかったのだ。ひいばあばはどんな気持ちだったのだろうか。にぎやかにするのが好きな人だったからきっとさびしかったんじゃないだろうか。

あれからじいじは少し元気がない。じいじが元気がないと何かつまらないし、ひいばあばもみんなの幸せを願ってくれていると思う。だからぼくは、これからも面白い事を言って、じいじを笑顔にしようと思う。



## 家族の温かい応援

広島市立落合小学校 民谷 未奈

私は、柔道を習っています。火曜日は、白鳥柔道クラブ、木曜日は、緑井柔友会と二カ所の道場に通っています。土日は、お兄ちゃんとお兄ちゃんの高校に練習に行っています。

お母さんは、二つの道場に連れていってくれて、練習を見てくれます。そして、お母さんは、必ず試合を見てくれて応援してくれます。お父さんも仕事が忙しいのに、仕事を脱けて試合を見に来てくれて応援してくれます。お兄ちゃんも試合を観に来てくれたり、技を教えてくださいます。

みんな、私に「未奈は、家族のほこりだよ。

ずっと応援しているから頑張っておリンピックに出場できるような選手になってね。」と言ってくれます。練習は、とても厳しくて、辛いと思うこともあるけど、みんなが応援してくれて、支えてくれるから頑張れるのだと思います。試合では、入賞したら、とてもうれしいです。負けた時は、くやしくて、涙が出ます。これからも柔道を頑張りたいと思います。そして、いつか、家族に恩返しができたら、いいなあと思います。

家族のみんな、いつもありがとう。これからも、応援、よろしくお願いします。



## ひいおじいちゃん天国でも歌っていますか。

広島市立船越小学校 坂川 諒

七月十三日、学校から帰ると、お母さんから、ひいおじいちゃんがなくなったと聞いた。ぼくは、なみだがあふれた。家族のきずなど聞いて、真っ先にひいおじいちゃんのことを頭にうかんだ。

少しはなれた所へ住んでいたひいおじいちゃんによく会いに行っていた。ひいおじいちゃんには、いつもぼくに色々な事を教えてくれた。歌の先生をしていて、歌がとても上手だった。そのえいきょうからか、ぼくは、歌を歌うことが大好きになった。一しょに食べたイノシシの肉、昔はおやつにしていたというニッキの木、ホクホクのやきいも、畑に

ある野菜の数かず、おかげでぼくの野菜ざらいはなくなった。戦争の話もしてくれた。勉強になった。しつけには、きびしい人だったので、注意されることもあった。それもぼくのためだったと今ふり返る。今でも外に置いてあるひいおじいちゃんがすわっていたイスを見るとひいおじいちゃんのすがたがないことを不思議に思う。つい二度見をしてイスを見つめてしまうぼくはさみしい。

ぼくは、ひいおじいちゃんからおしえてもらった経験をお守りにし、一生けんめい生きていきます。いままでありがとう。



## ばあちゃんとぼく

広島市立河内小学校 沖野 宗祐

ぼくの、ばあちゃんはやさしいです。数年前、ばあちゃんは時々ゲームセンターや温泉に連れて行ってくれたりしました。えい画を観る事もあり、楽しかったです。

ぼくが3年生のころに、ばあちゃんがびょう気にかかってしまって、ママやお兄ちゃん、お姉ちゃんがおどろいて、ぼくも正直おどろきました。ばあちゃんは、手術をしてなんとか助かり入院となりました。

ずっとねたままのばあちゃんを見るととても悲しかったです。

4年生の時、ばあちゃんは目がさめて、不自由になりましたが、たい院することができ

ました。すごくうれしかったです。

そして、5年生になったぼくは、ばあちゃんと一緒にくらしています。

たまに車いすを押したり、料理を用意する事ぐらいしかできないけど、出来るだけぼくがしてあげられることは、やっていきたいです。

今まで、たくさん遊んだり、温泉に行ったりしてくれた大好きなばあちゃんが、たくさん笑顔になってくれるように、ぼくはいっばいばあちゃんのために、よろこぶことをしていきたいです。



## 家族で乗り越える

広島市立袋町小学校 川瀬 春美

去年、お母さんに病気が見つかった。私はびっくりして、不安になった。なぜなら、いつも元気なお母さんがいなくなるかもしれないと思ったからだ。お母さんが、「がんばって治りようすれば大丈夫。」と言った。そして私は、不安な気持ちから、家族みんなで病気を乗り越えようという気持ちに変わった。お母さんが入院して、家にいなかった時、みんなで家事を分担した。私は洗たく物をたたんだり、弟の学校の準備を手伝ったりした。お母さんがいないと、さみしかったけど、お母さんが元気で帰って来られるように、お父さんとお姉ちゃんと私と弟、

みんなでがんばろうと思った。

入院してから二週間後、お母さんが退院した。学校から帰ると、お母さんが、「おかえり。」

と言った。私はそのしゅん間、涙があふれ出した。それは、うれしい気持ちと心配な気持ちと安心した気持ちが一気に出了。

これから先、困んなな事が起きても家族みんなで支え合っていけば大丈夫だと思った。家族のみんなありがとう。



## 曾祖父と食べたスイカ

広島市立伴東小学校 田畑 健吾

今から四年前に亡くなった曾祖父との一番の思い出は、曾祖父と祖母とぼくの三人で、一緒にスイカを食べたことです。このことは毎年、夏になり、スイカを食べる度に思い出します。

暑い日のおやつに、三人で食べたスイカ。曾祖父はおいしそうに食べていました。甘くて、おいしかった、三人で食べたスイカの味は四年経った今でも忘れることができません。今でもスイカを食べると、「また曾祖父と一緒に食べることができたら良いのにな。」と思います。

曾祖父は、亡くなる前は施設に入っていて、

ぼくはよく会いに行っていました。その時に戦争の話をしてくれました。戦艦に乗って、戦っていたようです。無事に生還してくれたことで、今の自分がいるので、とても感謝しています。

いつも優しくあった曾祖父。これから先も、スイカを食べる度に、曾祖父のことを思い出して、かわいがってくれたことに感謝したいです。



## かわいい妹

広島市立伴南小学校 森田 菜花

「いらっしゃいませーいらっしゃいませー」（また始まった…）私には七才はなれた妹がいます。最近のはやりはお店屋さんごっこです。お店屋さんは、いつも突然始まります。すると、家族の視線が私に集まります。（分かったよ…）私はしょうがなくお店屋さん買い物に行きあげるので。

妹が生まれたのは、四年前の三月でした。私は初めて妹ができるのを何か月もずっと楽しみにしていたので、その日は、今か今かと母が行った方をずっと見ていました。待ちくたびれていたところに、看護師さんが生まれたばかりの妹をだいて見せに来てくれました。

生まれたての赤ちゃんは、しわしわで想像とはちがったけど、こんなに小さいのにがんばって元気に生まれてきたんだ…と感動しました。私が人差し指を小さい手のひらに近付けると、ぎゅっとにぎってくれました。プニプニした手がとても温かくて勇気をもらったような感じがしたのを覚えています。

妹が二才の時に初めて人みたいな絵をかいて、「ねえね」と言いました。すごくうれしくて、写真をたくさんとりました。今四才でびっくりするくらいわがままでおこりんぼうだけど私にとっては本当にかわいい妹です。



## 何よりも大事なもの

広島市立飯室小学校 倉崎 めぐ

昨年、私にとって三人目の弟が五月に生まれることを知りました。また家族がふえ、にぎやかになることを楽しみにしていました。しかし、弟はダウンしょうだということがわかり、生まれてすぐ別の病院に運ばれました。だから、本当なら弟とお母さんがたい院し、帰ってくる日も、お母さんしか帰ってきませんでした。

しばらくしてたい院し、弟が家に帰ってきたときは、すごく安心しました。生まれたばかりで死んでしまうのではないかと不安だったからです。

しかし、その安心もすぐにとぎれました。

その年の夏休み、かぜをひいて具合がよくないので入院することになりました。また、赤ちゃんだけで入院できないので、お母さんもいっしょに入院することになりました。私が弟といっしょにふろに入ったりねたりして、おばあちゃんにごはんや洗たくをしてもらいました。すぐたい院しましたがとても長く感じました。私たちが元気に生まれて過ごしているのはすごいことだと思いました。

今はとても元気で保育園にも行っていて、人間が一人一こ持っている命は何よりも大事なことだということをあらためて感じました。



## 野村家、夜の公園を走る

広島市立広瀬小学校 野村 すみれ

早ね早起きがいいにこしたことはないですが、私達野村家は、夏休みには夜の公園を走ります。父の仕事がおそくまであり、帰って来て家族三人で運動するのです。まず母と私が家を飛び出すようにして走りだします。するとゆっくりとドアのかぎをしめた父がひたひたと近づき、私とテットヒートをくりひろげます。最後は結局父が勝ちます。公園につくと母はひたすらはしり、父は遊具を使ったけんすい、ふっきんなどのルーティーンをこなして、最後は父と私とのバレーボールタイム。今はスパイクの練習をしていて、ピシッと決まると、私の好きなバレーボールまん画

の主人公になった気分になれます。よごれた手は水道であらいながし、冷たい水を飲むとがんばった体にしみみます。運動が終わり、公園の出口に父と共に向かうと当然のように母が合流してきて、なんてグットタイミング！というも思います。

次の日も学校がないので夜ふかししほうだい！私は好きなまん画を読んだり描いたり、父はアマゾンプライム、母はユーチューブ大学鑑賞をエンドレス。人からはおこられてしまいそうだけど、これが野村家の、やめられない夏休みの過ごし方なのです。



## いつも支えてくれる家族

広島市立畑賀小学校 土井長 駿

4年前、西日本で大雨がふりました。ぼくが住んでいる畑賀も大雨がふりました。ぼくはその時家の中にいました。今までにないような大雨がふってきたりかみなりがゴロゴロとなったりしていました。そのかみなりの音をきいてぼくはこわくて不安に思っていました。ぼくが不安に思っているとき家族が、「だいじょうぶだよ。安心して。」

と言ってくれました。最初はこわくて不安に思っていたけどその言葉をきいてぼくの心は不安から安心に変わりました。それから何時間かたった時お父さんが人を助けるためにお父さんが外に出ようとした時ぼくはお父さん

をとめました。でもお父さんは、人を助けるために外に出ました。ぼくはまた不安に思いました。そしたらお母さんが、「お父さんはだいじょうぶだよ。」といってくれました。ぼくはお父さんがだいじょうぶだと信じました。お父さんは無事にかえってきて次の日大雨もやみました。ぼくはいつも家族が支えてくれたからこれからはぼくも家族を支えようと思いました。



## 家族の連携プレー

広島市立牛田新町小学校 御厨 蒼介

去年の夏休みに、弟が生まれました。名前は俊介で、家族からは、「ちゅん」と呼ばれます。この一年で家族のチームワークが良くなった気がしました。例えば、お風呂です。

まず、ぼくがちゅんをだっこして湯舟に入ります。滑って転ばないように、そーっと入ります。その間に、お父さんが髪と身体を洗います。ぼくは歌を歌ったり、ほっぺをつついたり、ちゅんの腕を持ってお湯を叩いたりして気を引きます。そして今度は、お父さんがちゅんの体をごしごし洗います。お父さんがだっこすると、ちゅんが小さく見えます。洗い終わると、お母さんがちゅんをタオルで

巻いて連れて行きます。背中にクリームを塗って、服を着せます。お母さんが、「そうすけ、ミルクあげてー。」

と言って哺乳瓶を渡してきます。ぼくはちゅんを布団にねかせ、横に自分もね転んで、ミルクを飲ませます。ちゅんは天井をじっと見ながら、「くっくっくっ。」と音を立てて飲みます。ここまでが、家族の連携プレーです。

ぼくは、家族のきずなが深まって、ますます家族が好きになりました。ちゅんが大きくなったら、手分けしてお風呂に入れていたことを教えたいです。



## 家族がいる喜び

広島市立伴南小学校 宮田 心陽

私は、夏休みに家族で原ばく資料館へ行きました。中に入ったしゅん間から、戦争で苦しんでいる人達の写真であふれていました。中には、私と同じぐらいの子供、小学生や私よりも小さい子まで、家族を失って悲しんでいる写真がありました。私まで、悲しくなりました。

このことから、家族の大切さを改めて感じました。お姉ちゃんとケンカをすることはあるけど、そんな相手がいるのは幸せなんだと思いました。家事をしてくれるお母さん。仕事で一生けん命働いてくれるお父さん。一緒に遊んでくれるお姉ちゃん。私はそんな家族

にめぐまれて、本当に幸せだと思います。もし私が戦争にあい、家族を失ったらとても悲しくて、苦しくて、どうすればいいのかわからなかったと思います。

今は、ウクライナとロシアがまだ戦争を続けています。家族を失った子供もたくさんいると思います。その子供の分まで家族を大事にしたいです。

友達や家族がいる喜びや幸せを感じて、世界中のみんなが毎日を過ごしていけばきっと明るい未来になると思います。そんな未来をみんなであつくりたいです。



## 大切な人を失う悲しみ

広島市立伴東小学校 福田 璃空

ある日、ひいおばあちゃんがきとくになり、そのまま亡くなってしまった。

葬式の日、私は泣けずにいた。ひいおばあちゃんと出かけたりしたのは、小さい頃のこと、私は覚えていなかったから。でも、葬式最終日、つまり、ひいおばあちゃんとの別れの日。おばあちゃんが全てをはき出すように、顔を真っ赤にして泣きだした。私はびっくりした。おばあちゃんがあんなに大声で泣いている姿を初めて見たから。だから、私も泣きそうになった。親はいつまでもそばにいてくれるとは、限らないんだなと思った。

おばあちゃんが泣いている時、お母さんがお

ばあちゃんの背中をさすっていた。私も涙をこらえて、おばあちゃんの背中をさすった。

お昼ご飯を食べるために場所を移動する前、おばあちゃんに「背中さすってくれて、ありがとね。」って言ってもらったがうれしい気持ちにはあまりなれなかった。背中をさすることしかできなかったから。でも、今では、背中をさすれてよかったと思っている。この日、初めて、大切な人を失う悲しみが分かった気がした。



## ぼくと二人のお姉ちゃん

広島市立中島小学校 反田 朝日

ぼくには、お姉ちゃんが二人います。一人は高校一年生、もう一人は中学二年生です。年の差があって、ちがう性別ですが、一緒に遊ぶと楽しいです。もちろん、つまらないことでけんかをする時もあります。けんかをすると、暗い気持ちになり、話すのがいやになります。

そんな時、ぼくが赤ちゃんだったころの動画を見ます。その動画は、お姉ちゃん達が体いっぱい使って、一生けん命にぼくを笑わせている動画です。ぼくは、見様見真似でお姉ちゃん達と同じ動きをして、大きい声でいっぱい笑ってました。小さいぼくは、ニコニ

コでとても幸せそうでした。

ぼくは、この動画を見て気が付きました。お姉ちゃん達は、こんなにぼくをかわいがってくれていたのに、けんかをしてしまい申し訳ないなあとと思いました。

この動画には、お姉ちゃん達の優しさや愛情があふれています。動画の中でも、子ども達を見ながら、家族があたたかく見守っている視線も感じられます。この動画を見るといやすされるので、家族みんなでときどき見ます。これから、この動画のようにみんなが毎日ニコニコできるような家族にしたいです。



## 長生きしてくれてありがとう

広島市立矢賀小学校 富田 紗帆

私のひいおばあちゃんは、今年で百才になりました。三年前までは年末に親せきが、ひいおばあちゃんちにみんな集まって、おもちゃつきをしていましたが、ひいおばあちゃんが高れいで長く立っていらなくなってきたので、それ以来集まる事はなくなってしまいました。その後は、新型コロナウイルス感染症がはやり始め、さらにひいおばあちゃんに会いに行く事が少なくなりました。その間に認知症も少しずつ進んでしまい、すぐに私の名前も言えなくなってしまいました。高れいのひいおばあちゃんにコロナをうつさないように、みんな遠りよして会いに行けなかったけ

ど、今回の百才の誕生日会は、県外からもひいおばあちゃんの百才を祝うと二十五人の親せきが集まりました。会の終わりのあいさつは、ひいおばあちゃんがいすから立ち上がった、

「これからもがんばりますぞっ。」と笑いながら言ったので、みんなから大きな拍手が起こりました。ひいおばあちゃんの元気な姿が見られてうれしかったです。私も年をとったら、みんなから囲まれて笑顔になってもらえる人になりたいと思いました。



## 私のひいおばあちゃん

広島市立中野東小学校 杉山 志帆

私のひいおばあちゃんは岐阜県に住んでいて、時どきしか会えません。会えるのはお正月とゴールデンウィークと夏休みの三回くらいです。最近はコロナでそんなに会えなかったけど、今年の夏は岐阜へ行って会えることができたのでうれしかったです。私が小さいころはよく折りがみの折り方を教えてもらったり、仏だんの前でいっしょにお経をよんだりしました。ひいおばあちゃんのすごいところは、九十一歳になっても病気やけがなく元気にすごしているところです。家の近くを散歩してたりもしています。ひいおばあちゃんが九十一歳になっても元気な理由は、なんだ

ろうと思い母に聞いてみたところ、「毎日、体そうをしていること・昼ねをしていること・ひまごと遊んでいること・3食ちゃんと食べていること・毎日日記を書いていることだと思ふよ」と言っていました。それを聞いて私は「すごいなあ」と思いました。なかなか会えないけど、優しく、いろんなことを教えてくれて元気なひいおばあちゃんは自まんの家族です。次にお正月に会ったらお話をしたり、おり紙をまた教えてほしいです。

これからも元気で長生きしてねひいおばあちゃん。



## みんなぼくの応えん団

広島市立比治山小学校 増井 奏多

「奏多、がんばれよ。」と車をおりるときに、いつも言ってくれるのはおじいちゃん。サッカーと水泳の送りは、毎週おじいちゃんがしてくれます。車の中では、二人が大好きなカーブの話。昨日の試合のことや今日の先発ピッチャーのことなど話はもり上がります。ぼくは、この時間が大好きです。時々真面目に、習い事のアドバイスやぼくがいかに幸せ者かということを教えてくれます。「かなたん、大丈夫よ。」と不安なときに、いつも言ってくれるのはおばあちゃん。宿題が分からないときや自信が

なくなってしまったときに、いつもやさしく背中をおしてくれます。おばあちゃんの作ってくれるたまご焼きが大好きで、毎日でも食べたいくらいです。ぼくの元気の源です。「かな、大好き。」と言ってくれるのはお父さん、お母さん。「いに、きらい。」と言うのは妹。けんかもするけど、ぼくが持つて行くのをわすれた水筒を教室までとどけてくれます。たよりになる妹です。いつもみんながぼくを応えんしてくれるので、ぼくは毎日がんばれます。ありがとう。



## ぼくの妹

広島市立江波小学校 吉田 怜音

ぼくがいつも、そろばんやドッジから帰ると先に帰っている妹が、ドアを開けて走っておかえりと言ってくれます。そして、にいに言ってぼくの足にだきついてきます。保育園でかいた、いろんな絵を「はいどうぞ。」といいわたしてくれます。妹はいつも母さんに「今日にいにいっしょにお風呂入っていい。」と聞いています。母さんは「入ってもいいけど遊ばないで、あらってね。」といいます。でもぼくと妹2人で遊ぶのが楽しくてつい遊んでしまいます。2人でテレビを見る時は、いつもリモコンのとりあいになります。でもこれがずっと続

くのがいやだから、仕方なく妹が見たい番組をいっしょに見ます。夜ねるとき、ぼくはわざと妹のふとんでねようします。すると妹がおこってぼくの体をけってきて、自分のふとんにもどそうとします。そんな風にいつも、けんかばかりしていましたがぼくは妹が大好きです。二人きりの兄妹なので、けんかしながらも助け合ったいこうと思います。



## ほんとうにありがとう

広島市立山本小学校 谷本 さくら

私は小さいころに病気で入院した。手術も何回かうけた。治療はとてみたいくてつらかった。でも家族や病院の人たちがたくさんはげましてくれた。お母さんはいつもいっしょにいてくれたし、お父さんは私のために一生けん命働いてくれたし、お兄ちゃんは学校であった楽しいお話をたくさんしてくれた。おじいちゃんとおばあちゃんはお見舞いにきてくれたし、看護師さんはおやつをくれたり、絵を書いてくれたし、院長先生は毎日アイスを買ってくれた。家族や病院の人たちがいたから、つらい治療をがんばれた。だから私は医者になりました。

い。看護師さんや院長先生みたいにたくさんの人を助けたい。それが小さいころからかわらない私の夢だ。今はもう病気はほとんど治って年に一度しか病院に行かない。院長先生はもうお年で病院をやめるそう。毎日欠かさず病室にきてくれた院長先生。やめるのはさみしいけど今度は私が元気づける番。お母さん、お父さん、お兄ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、看護師さん、院長先生、ほんとうにほんとうにありがとう。



## 家族の大切さ

広島市立古田小学校 高橋 漣

これは7月にあったことです。弟が東京で手術を受けるために、家族4人が東京と広島に分かれて2人ずつで2週間生活することになりました。そこでぼくは、お父さんと2人で広島で生活することになりました。お父さんとは外食をしたり旅行に行ったりと、2人でいる間にいろいろなことがありましたが、なんだかいつもより少し静かでさみしかったです。これまではずっと4人いっしょの生活だったので気づきませんでした。お父さんと2人で生活をしてみて、家族は全員がそらっていた方がいいなと思いました。家族が

4人でいることがあたりまえだと思っていましたが、そのあたりまえのことがすごく大事なことなのだと分かりました。また、家族みんなで生活するときには、みんなが明るくいられるように、自分のことは自分でやったり手伝いをしていきたいと思いました。今では4人で生活していますが、やっぱり4人でいることが明るく楽しくていいなと思いました。



## やさしいぼくの家族

広島市立中筋小学校 澄川 瀬

ぼくは、4年生の中から学校へ行くのがむずかしくなっていました。原因は、分かっているけど自分でどうする事もできなくて何を話せばいいのかわからなくてどんどんいやな気持ちが大きくなってしまいました。家族は、困っている時いつも助けてくれます。学校へ行けない日があると家でお母さんお兄ちゃん、お父さんが勉強を教えてください、ぼくがなやんでいたら、みんなが大事な事を教えてください。ぼくが、暗い顔をしていると、お父さんが笑わせようとおもしろい行動をしてくれます。お兄ちゃんと、弟も

「らい、遊ぼう。」と、言ってくれます。とてもやさしい兄弟だけど、ぼくは怒ったり、機嫌が悪くなったり、素直になれなくて、冷たい態度になる事もあります。そんな時ぼくは、家族のみんながぼくの事を、心配しているのがすごく伝わって、家族が協力してくれている気持ちがよく分かります。ぼくの気持ちが取りもどせるように、家族に心配かけないためにも、少しずつがんばっていこうと思っています。



## 妹のたん生

広島市立狩小川小学校 大原 彩愛

今、私には兄弟が3人います。去年の9月に一番下の妹が産まれました。夜中にじん痛がきていました。その時のお母さんは横になっていました。その後、病院に行きすぐに赤ちゃんが産まれました。私はとってもうれしかったです。なぜなら妹が無事に産まれてきてくれたからです。前にテレビで出産の時に赤ちゃんが助からなかったという番組を見ました。私はこの時、人の命は大切だなと実感しました。赤ちゃんを産む時は汗をいっぱいかいていて、気持ちをこめて産んでいるので人の命は大切だなと思いました。夜に、産まれた後で妹が泣いている時の動

画がお母さんから送られてきました。とってもうれしくて目が覚めてきました。お母さんと妹が帰ってくる日は学校の日でした。前日は楽しみで楽しみで夜あまりねむれませんでした。学校から帰ると妹とお母さんがいました。妹は小さくてかわいかったです。私はおかえりという言葉に泣きそうになりました。妹のたん生を通して、命の大切さを実感したので、友達や家族を大切にしていきたいです。



## やさしい気持ちを集めると

広島市立緑井小学校 岡部 未希

その日は、いつもとちがいました。父から学校に電話があり、習い事に行かず家にそのまま帰るように言われました。そのとき、私は(どうしてだろう。なにかあったのかな)と思いました。

家に帰ったら弟と妹しかいませんでした。三人で家でまっていたら、父から電話があり、「おかあさんが急にたおれてしまって、いま病院にいるよ。」

と言われてすごくびっくりしました。それから、母の入院が決まりおばあちゃんが来てくれました。父も会社を休んで、母のぶんも私たちのめんどうを見てくれました。

少し安心したけど、やはり母がいなくてさみしかったです。けれどそれは、弟も妹も同じ気持ちでがまんしているようでした。だから、私は父やおばあちゃんの手伝いをがんばりました。

そうして、母もぶじ退院でき、帰ってきてくれてうれしかったです。けれど、まだ良くなかったわけではないので私が母の手伝いをしようと思いました。すると、弟や妹も自分から手伝いをするようになりました。みんなが出来る事をすればやさしい気持ちになるのだと思いました。



## 手ぬいの水泳タオル

広島市立翠町小学校 日原 啓吾

ぼくは、小さい頃から水泳を習っていて、お気に入りのタオルを使っていました。

ある日、そのタオルを着たまま、ベランダに出た時にかべのどっぴりにひっかかって、タオルがL字に大きく破れてしまいました。「やばい。これをお母さんに見せたら怒られるかもしれない！」

と思うのと同時に、水泳を始めた時から使っていた水泳タオルだったので破れて使えなくなってしまうことがショックでもありました。

途方に暮れたまま、ベランダから部屋に入った時、部屋の中にいたお兄ちゃんが、

「どうしたの？」

と声をかけてくれたので、事情を説明したらぼくの気持ちを理解してくれたお兄ちゃんが、買ったばかりの裁縫道具を使って、慣れない手つきで破れた所を縫ってくれました。

ぼくは、すごいなと思いながら、お兄ちゃんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。お兄ちゃんが縫ってくれた部分は、きれいとは言えない物でしたが、お兄ちゃんが一生懸命に縫ってくれたこの水泳タオルをぼくはずっと大切にしようと思えました。



## ぼくの大切な家族

広島市立己斐小学校 佐々木 凱正

ぼくが小学校一年生の時、妹が生まれました。初めての兄妹で、兄になる楽しみがありました。その出産に立ち会った時、家族みんなで無事に生まれてくるよう見守っていました。パパがママに付きそい、ぼくは、じいじとばあばと、病室の前のろう下でドキドキしながら待っていました。ついに、妹がたん生しました。かんごしさんが、こんなけい験はめったにないからと、「パパとーしょにへそのおを切ってみない？」と、ぼくをよびに来てくれました。ぼくは、さらにドキドキしながら、病室に入りました。そこには、とても小さな赤ちゃんがいて、元気な声で泣いてい

ました。感動しました。パパとーしょに、ママと妹がつながっているへそのおを切り、「ママおつかれ様。妹、生まれてきてくれてありがとう。」と思いました。ぼくが生まれた時もこんな感じだったのかな、家族みんなに見守られて、大事に育ててもらっているんだなと思いました。

また、昨年、学校で二分の一成人式がありました。改めて、家族の大切さを感じ、両親からの手紙を読んで、「この家族で本当に良かった。」と思いました。これからも、家族みんなで仲良くくらしていきたいと思います。



## おじいちゃんの病気

広島市立古田小学校 山根 愛子

私のおじいちゃんは、ALSという病気です。この病気は、体を動かすきん肉が少しずつ弱くなっていき、体を思うように動かせなくなるなん病です。

おじいちゃんは、私が二年生の夏休みに自分でこきゅうが、できなくなりました。そして、人工こきゅうきを付けました。たい院してすぐの時は、お母さんと私と弟で、おじいちゃんの家にとまってお世話をしました。いつもより早く起きて、車で学校に通ったりして、大変だったけど、そのおかげで今も長生き出来ています。

お母さんは病気で困っている人達が、たく

さんいる事を知って、自分にもできる事があると行って、かいごの資格を取りました。一人の人を助けるために、いろんな人が協力しているんだなと思いました。私も少しでも、おじいちゃんのために、弟とお留守番をしたりしています。

私はおじいちゃんの命のとうとさと、おじいちゃんを助けようとする、お母さんやおばあちゃんやおばさん達の家族の愛ときずなを感じました。



## 家族の笑顔😊

広島市立比治山小学校 モチエルラ ハシニ

わたしは、自分の家族の笑顔が好きです。家族が笑顔になると、うれしくなってわたしも笑顔になります。時々、妹とけんかになりそうなきも、家族の笑顔をなくしたくなかったので、なんとかごまかして仲直りしようとしています。

わたしが初めて、「笑顔って大事なんだ」と気付いたのは、四年生の誕生日前です。お母さんに、「プレゼント、何がいい？」って聞かれて、少し考えて、こういいました。「え〜、なにもいらな〜い。だって、今ここに自分がいるのは、家族のおかげでしょ？わたしがなにかあげなきゃ。」

すると、お母さんが一瞬固まって、すっごく笑顔になりました。わたしもお母さんが笑顔になってくれてうれしかったです。その気持ちが今になってもわすれられないため、毎日だれかを笑顔にするようにしています。もちろんみんなを笑顔にしている自分も、すっごく笑顔になります。

家族だけでなく学校の友達や先生も笑顔にしたいので、周りの人にもやさしくしようと思えます。これからも、みんなを笑顔にするように、がんばります。



## 2さいの妹

広島市立春日野小学校 大平 悠真

ぼくは、3人兄弟です。なかでも、最も年下なのは妹です。妹は、2さいで字も書けません。おまけに「すずめ。」を「しゅじゅめ。」というはつ音になっている、かわいい妹です。

ある時、次の日は、野球の合宿で、ノートを書いていると、ドアをしめていなかったのに、妹が部屋に入ってきました。ぼくがノートを書いていたので、妹は気になって、ぼくの方へきました。そのとき、おもわずぼくの足をふんでしまったのです。ぼくは「いたい。」とさけんで、それからお母さんがこっちへきました。お母さんは、妹にとうぜんガミガミとおこっていました。ぼくはおこられている

妹を見て、ふっと思いました。「もしかして遊んでほしかったから、かまってほしかったからだったのかな？」と思いながら、もやもやした気持ちの中、野球の合宿に行きました。合宿は、楽しいけれど、もやもやした気持ちでいっぱいでした。

その次の日、合宿が終わり、バスからおりたとき、おじいちゃんがむかひにいていました。車に乗ってじいちゃん家につくと、急いで家に入りました。中には妹がいて、だきつこうとすると毎日のように「やめて。」といいましたが今回はなぜか、うれしかったです。



## おばあちゃん、がんばって！！

広島市立翠町小学校 永松 明希子

私のおばあちゃんは、三年前に脳こうそく  
で倒れ、入院しました。私は、それを聞き、  
悲しくなりました。

私は、おばあちゃんに千羽づるを折ってあ  
げようと思いましたが、当時、二年生だった  
ので、うまく折ることができませんでした。  
そこで、一人でも折ることができた、かぶと  
を一生けん命作り、『早くよくなりますよう  
に。』と、はげましの言葉を書きました。

かぶとは、さすがに千個はできませんでし  
たが、五十個つなげたものを、おばあちゃん  
にあげました。おばあちゃんは、とても喜ん  
でくれ、病室にかざってくれました。それを

見た看護師さんが、「いいですねえ。」と言っ  
てください、嬉しかったです。

おばあちゃんは、私のメッセージ入りのか  
ぶとを見ながら、リハビリを頑張りました。  
私も、早く退院できるように、手足を動かす  
リハビリの手伝いをしました。

そして、おばあちゃんは、無事に退院する  
ことができました。私のかぶとと一緒に。

おばあちゃんは、左手足が少し不自由です  
が、今でもかぶとを見て、元気を出そうとし  
ているそうです。私は、今度は、千羽づるを  
折って、おばあちゃんを支えていきたいです。



## お母さんの言った言葉

広島市立三田小学校 城戸 優芽

私は、お母さんに言われて心に残っている言  
葉が二つあります。

一つ目は、「人の気持ちを考えて行動して  
ね」です。私は、相手がどう思っているのか  
を考えて相手の気持ちに寄りそえるようにガ  
ン張っています。相手の気持ちを考えて、相  
手がいやになる言葉などを言わないようにす  
ると、最近はケンカが無くなってきました。

二つ目は「自分だけを優先せず、相手と自  
分と一緒に決める」です。友達と言い合いに  
なった時は、自分のいやだったことを相手に  
伝えて、相手がいやだったことを聞くように  
しています。両方ともいやだったことを言う

と、次の時にはおたがい気をつけられるので、  
ケンカしなくなります。委員会決めみたい  
に何かを決める時も、友達にどこに入りた  
いかを聞いて、自分の考えも言うことで上  
手く決められました。

これからも、お母さんに言われたこの二つ  
のことを忘れず、自分だけを優先せず、自  
分も相手も優先していこうと思います。



## お兄ちゃんからの手紙

広島市立宇品東小学校 前野 光紀

ぼくには、お父さんお母さんと四才年上  
にお兄ちゃんがあります。お父さんは単身赴任で  
家にいなくて、お母さんは休みの日に仕事に  
行くことが多いので、お兄ちゃんと二人お留  
守番をします。しかし、最近お兄ちゃんも部  
活に行くことが増えて、お兄ちゃんがない  
一人の日は少し寂しい気持ちになります。

ぼくは、自分にお兄ちゃんがいて良かった  
と思っています。なぜなら、一人で遊んで  
いる時よりも、二人で遊んでいる時の方が楽し  
く感じるからです。

お母さんから聞いたことですが、ぼくが小  
さかったころお兄ちゃんがお泊り会に行った

時に、ぼくは寂しくて夜中泣いて寝つけ  
なかつたそうです。それ以来お兄ちゃんはお泊  
り(野外活動や修学旅行)に行く時には、ぼ  
くにお手紙を書いてくれます。「みっくん、  
ぼくがいなくても泣いたりしないでいい子  
してね」ぼくはこの手紙を見た時、少し一  
人でもがんばれる気がしました。お兄ちゃん  
のぼくを安心させてくれる気持ちがとてもう  
れしかったからです。ぼくは十月に泊りで野  
外活動があります。その時には今度はぼくが  
お兄ちゃんへ手紙を書こうと思います。

「お兄ちゃん、いつもありがとう。」



## グローブ

広島市立深川小学校 吉川 佑

ぼくの、家族のきずなを表す物は、グロー  
ブです。なぜ、グローブにしたのかという  
とそのグローブは、兄ちゃんに買ってもらった  
大切なグローブだからです。昔、よくけんか  
をしていたけど兄ちゃんが働いて買ってく  
れたグローブです。お給料が少ないのにも、か  
かわらず、ぼくのために、ためて買ってく  
れたのでとてもうれしかったです。最初兄  
ちゃんがグローブを買ってあげると言って、うそ  
だと思ったけど兄ちゃんと父さんがスポーツ  
デポにつれてってくれて、本当に買ってく  
れるんだと思って、わくわくしながらお店に  
入りました。今までは、兄ちゃんが昔使ってい

たグローブでやっていたけどボロボロにな  
ったのに気付いて、買ってくれました。兄  
ちゃんのグローブは親から買ってもらっていた  
ので、兄ちゃんは、グローブってけっこうする  
んじゃないかと言ってたけど、好きな選べ  
と言って、高いねだんのグローブを買ってく  
れました。買った時に、兄ちゃんは、道具を大  
切にしるよといってからグローブをみがくク  
リームも買って来て、びっくりしました。  
ぼくは、買ってもらったグローブを大切に使  
おうと思っています。今ではそのグローブが  
大切な、たからものとなっています。



## ぼくの大好きな時間

広島市立東野小学校 常行 晴斗

ぼくは、楽しみにしている事があります。  
それは、金曜日と土曜日の夜ねる前にふと  
んに入って、弟とお母さんといろいろな話を  
する事です。

学校での出来事や、友達の話、好きなア  
ニメやマンガの話などをします。たまに弟と  
けんかになったり、笑いが止まらなくな  
ったりしてどんどん目が覚めてきます。でも、  
次の日が休みなのでお母さんも何も言  
わずにいっしょに話してくれます。

話しているうちに、弟がウトウトして  
きて先に寝てしまう事があります。その  
時はぼくとお母さんの二人になるので、  
弟に聞かれた

くない話や、ぼくが小さかったころの  
話がゆっくりできるのでさらに楽しい時  
間になります。

お母さんは、本当はつかれてねむい  
はずだけど、ぼくが楽しそうにしてる  
からいっぱい話してくれます。そして  
ぼくがねてしまうまでおきて話して  
くれます。ぼくはそれがとてもうれ  
しいです。

ぼくの家族は会話を大切にしています。  
これからも家族でたくさん会話をし  
ていきたいです。



## かわいい妹

広島市立仁保小学校 樋岡 薫

「小さいね。」  
ぼくは今年の六月初めの妹ができました。  
初めて見た時は、小さいなと思いました。  
なぜかという、あんなに小さな、人間は  
あんまり見たことがなく、自分もあれ  
くらいで生まれて、今では、一メートル  
五十センチメートルをこえて、大き  
くなるのが早いなと思ったからです。  
そして、初めて泣き声が聞けた時は、  
小さいのに結構泣けるんだなと思  
いました。そして、初めておむつをか  
える時は、うんちは、もっとくさい  
のかと思ったけど全然くさくさな  
なくて、やり方を覚えたら、よ  
うでできるようになりました。そして、  
お風

ろに入ると、急に気持ちがよさそう  
な顔をして、見ている、気持ちがよ  
かったです。そして、たまにくしゃ  
みをするときは顔をくしゃくしゃに  
させて、くしゃみをするのでても  
かわいいです。かみもさらさら  
して、気持ちが良いです。ごきげ  
んで起きている時は、目をぱち  
ぱちあけて、足をパタパタさせ  
て、おもしろくて、かわいいです。  
そして、顔がぶくぶくして、指  
でおすと、ぷにぷにしている  
感じがいいです。

妹はとてもかわいいです。ぼくも、  
家族の一員としてがんばってい  
きたいと思いました。





## 家族とあたり前の日常

広島市立五日市小学校 田中 佑朋

僕はこの間新型コロナウイルスに感染しました。家族や親戚でも初めて感染したので、最初はどうかと思いました。十日間、なるべく家族と離れて、自分の部屋に一人でいて、家族と一緒に話したり、寝たり、ゲームをしたりすることもできず、熱が下がったら、ずっとたいくつで、寂しかったです。改めて、「家族と一緒に過ごす毎日のあたり前の生活って、幸せだなあ」と思いました。熱が出た時もたくさん看病してもらい、とても嬉しくて、病気や熱のしんどさも和らぐほど、優しく接してくれました。やっぱり、自分にとって一番大切なものは家族なんだなあと思いま

した。  
療養期間が終わって、家族みなでごはんを食べている時、お母さんが静かな声で「みんなでご飯を食べれるって、幸せだね。」と言いました。僕は、なんとなくその気持ちが分かったような気がしました。自分の家族が、いつまでも元気で、健康でいてほしいです。そして、家族と過ごすあたり前の普通の毎日を、今までよりたくさん大切にしたいなと思います。



## お母さんの手作りおから

広島市立祇園小学校 石田 紗愛

私はこの間おからを作った。いつも何気なく食べているおからだからかん単に作れるだろうと思っていた。私はまぜる仕事をまかされた。やっていると手がすごく重くなった。それにお母さんから、「水分をとばすようにまぜるのよ。」と言われて挑戦してみた。でも、おからはなべからとび出るし、水分はとばないし、たくさん失敗した。結局、お母さんとと中でかわってもらってできあがった。私の左手はいたくてしかたなかった。私はいつも何気ない気持ちで食べていたおからが努力の結しようみたいに感じて見方が変わった。お母さんはいつ

もこの大変な作業を一人でやっていたのだ。自分で作ってみて少しお母さんの大変さが分かった気がする。お母さんにどうして大変なのに頑張れるのか不思議に思って聞いてみた。するとお母さんは「仕事がいそがしい分、一緒にすごせる食事では、手作りのものを食べさせたいし、健康のことも気になるからだよ。」と言っていた。お母さんは仕事がいそがしくても私達のことを考えてくれていた。私は心の中でないていた。うれしかった。だから、お母さんのごはんが何よりも大好きだ。



## 今からかんごしになるお母さん

広島市立石内北小学校 灰原 陸

ぼくのお母さんは31さいのときにとつぜんかんごしになると決め、かんご学校を受けんし、合格しました。ぼくのひいおじいちゃんが死んだときに、とてもよくしてくれたかんごしさんにあこがれてなろうと決めたそうです。そして今も勉強しています。

夜おそくまで勉強して土日朝おきられないときは、ぼくがかわりに朝ごはんを作ります。朝ごはんを作ったらお母さんがほめてくれるのでうれしいです。

お母さんは、かんご学校から帰ってきてテストを持って帰ってきたときにいつも点数が90点以上なのですごいなと思いました。

お母さんが勉強をしているので、お手伝いをします。朝ごはんやせんたくもの、そうじなどをします。ぼくだけではなく弟たちやお父さんとかもします。お手伝いするとお母さんがよろこんでくれるのでうれしいなと思っています。

家のこともしながら勉強もするお母さんはすごいなと思います。これからも今からかんごしになるお母さんをおうえんしていきたいと思いました。そしてこれからも手伝いを続けていきたいと思いました。



## いつもありがとう お父さん、お母さん

広島市立可部小学校 江頭 宗佑

ぼくは、よく心の中でモヤモヤすることがあります。そのモヤモヤを言わず心にためていることもあります。

お母さんとお父さんは、そのぼくの心のモヤモヤがあることに気付いてくれて話も聞いてくれます。なのでぼくは、全部言い切ると気持ちがスッキリします。

ぼくは、習い事で野球をしていて野球でもいろいろくやしいプレーをしたりしてモヤモヤすることがあるけれどお母さんお父さんがそれもすべて聞いてくれます。話をした最後には、お母さんは、「もうわすれんさい。」

とはげましてくれてぼくは「次はがんばろう」と前向きな気持ちに変わります。野球の時は飲み物など準備もしてお母さん、お父さんだっといそがしいし、つかれているのにぼくに気を使ってくれて「ありがとう」と思いました。お母さんお父さんが、がんばってくれているのでぼくも勉強や家事などをして手伝っていきたいなと思いました。

ぼくは、お母さん、お父さんに話してもらって助けてもらって本当に感謝しています。



## チーム家族

広島市立向洋新町小学校 本家 椿子

私の家族は母さんじいちゃんばあちゃんおばのこっちゃんの五人家族です。そして近くに九十四才のひいおばあちゃんが住んでいます。ひいおばあちゃんは私が生まれる前から畑でおいしい野菜を育てたりなんでも素早くできるスーパーひいおばあちゃんでした。しかし私が大きく育つにつれひいおばあちゃんは小さな子供の様になっていきました。なので毎日ばあちゃんとおばあちゃんの姉がお世話をしに行く様になりました。家でもひいおばあちゃんの話が多くなり少しずつ笑顔がくもっていきました。そこでチーム家族ができました。一人より二人二人より三人四人五人

家族全員でひいばあちゃんを支える様になりました。私もチーム家族の一員です。私の仕事はお皿をならべたりさげたり時には野菜を切ったりとチャレンジしています。それだけではありません。得意なおしゃべりでひいおばあちゃんが居る時話をしたり絵を一緒にかいたり楽しい時間を過ごします。お世話は大変ですがみんなで力を合わせる事で気持ちが軽くなると思います。さ細な事でもこのチーム作戦は最強で最高なチームです。家だけでなくもっと多くの人達とチームを組む事で悲しみしかない戦争を止める事もきっとできると信じています。



## 妹とぼく

広島市立牛田新町小学校 中沢 暁登

ぼくは、妹がすごくほしかったです。そして今ではその願いがかなっている。だけど、少し不満があります。

それは、毎日ちよっかいをかけてくる事です。一見普通に見えてもぼくはすごく嫌です。なぜなら、ちよっかいをかけてきて注意をすると泣いてしまったりして喧嘩になってしまふ。そしたらお母さんがきて、ほぼ毎回ぼくがおこられ、ぼくがあやまる。お母さんに、「妹はまだ、三さいなんだから言っても伝わらない事がおおいのよ。」と言われるけど、やっぱりはらたつ。

でも妹の好きなところだっただくさんあ

る。その中で一番印象的なのは、ぼくがお母さんに、ものすごくおこられたときに、「もうおこらないであげて、大事なにいになの大好きなの。」

と言ってくれた事です。ふだんけんかしているのにぼくを大好き。と言ってくれた事がとてもうれしかったです。

これからもうずっといっしょにいる、妹なので、妹の笑顔が少しでもふえるように頑張ります。



## チーム家族

広島市立中島小学校 古川 漣

三年前の秋の夜、寝室に入るとすぐにお母さんに言われた。「今から大切な話をするから聞いてくれる？」私は少し前からお母さんの体調が悪いことや、その事で家族が何かかくし事をしている気がしていたので、何の話かすぐに分かった。私の予想通り、お母さんは今病気で、来週入院をして手術を受けるという事と、手術をすれば完全に治る事などをゆっくり優しく話してくれた。予想はしていたけれど、自分の事より入院中の私の事ばかりを心配するお母さんの笑顔が消えてしまいそうで、涙が止まらなかった。お母さんの入院中は、お父さんが特

製ラーメンを作ってくれたり、おばあちゃんが折り紙で遊んでくれたりして、少しだけ気持ちが悪くなった。でも夜になると寂しくなって涙は出たけど、一人で眠れた。食器の片付けや洗たく物干しも出来る様になった。

数日後に退院したお母さんは少しずつ元気になり、今は家族全員がいつも通りにすごしている。この「いつも通り」が本当に幸せな事だと今回の出来事で気付く事が出来た。

私の家族は、みんなで力を合わせればどんな困難も乗り越えられる最強のチームになった。



## 手紙でつながる家族

広島市立安東小学校 西村 凜愛

この作文の宿題がでるまで私は絆について考えたり、辞書で調べたりしたことがありませんでした。でも今回、絆の意味を深く知ることができました。

私には県外に住む祖父母がいます。車で行けば、約四時間近くの所にあるのですが、父の仕事と新型コロナウイルスの関係が重なり八年間帰っていません。最後に帰ったのが二才の時でした。なので記憶がほとんどありません。家の場所や形、周囲に何があったかも覚えていません。祖父母の顔は会えば分かるのですが、パッと思い出すことはできません。私の事も忘れてしまっているのではないかな

と思ったこともありました。年に二度、姉と私の誕生日に必ず手紙が届きます。毎回違うかわいい便せんに文字がびっしり書いてあります。この手紙を受け取ると、私は忘れられていなかったのだと、二重のよろこびをもらうことができます。「絆」とは、辞書に『人と人の断つことのできないつながり。離れがたい結びつき。』と書いてありました。これを読んで、祖父母と私達姉妹はこのような関係なのだと思いました。

次はいつ会えるか分かりませんが、この絆を信じて会える日を楽しみに待ちたいです。



## 我が家の決まり

広島市立五日市中央小学校 槌谷 寿音

第一条、妹の食べるものは必ず原材料を見ること。おかしなど一度食べた物でも変わるかもしれないから何度も見る。これは我が家の大切な決まりだ。なぜこんな決まりがあるのかというと、妹が小麦、乳、卵アレルギーだからだ。前に一度まちがえて、乳を食べてしまったときがある。そのときの話をしよう。その日は家族全員で外食しにいった。行き先はカレー屋さんだ。みんなカレーを食べた。妹用の小麦、乳、卵を使っていないカレーもあった。みんながカレーを食べていると「気持ち悪い」と妹がいいだした。みんなあわててカレーを食べて家に帰った。薬をのんだ妹

は楽になったようだ。その日食べたものを洗いざらい調べてみると、カレーを食べる少し前に食べたわかめおにぎりに乳がほんの少し入っていた。この日からさらに気をつけるようになった。妹がアレルギーと分かって、大変なこともあったけど、アレルギーのおかげで学んだこともたくさんあった。例えば、アレルギーフリーの食品をたくさん知れた、アレルギーの人の気持ちが知れたなどいろいろある。だからわたしは小麦、乳、卵に気をつけようと思うし、ふか試験をがんばる妹を応援し続けたい。



## かけがえのないお母さん

広島市立可部小学校 中谷 瑠衣

わたしのお母さんは、わたしが小さいころがんにかかってしまった。そのことをきいたわたしと兄は、泣いてしまった。お母さんが死ぬのかもしれないと思ったら、もっともつと悲しくなった。その時、お父さんが帰ってきて、泣いているわたしたちを見て、心配した。お母さんがじしょうを話すとお父さんが「だいじょうぶだよ。すぐに元気になるさ。」と言ってくれた。その後お母さんが、「病院に行ったら、すぐに元気になるからね。」と言ってくれた。それをきいたわたしたちは泣きやんで、お母さんがいなくてもがんばって生活する！と心の中でそう決めた。そのと

き、わたしにとってお母さんはとても大切な人なんだなと思った。

そして、お母さんが入院した。わたしはよくお母さんに会いに行っていた。その時はいつも笑顔だった。それを見たわたしはほっとしていた。そして手術がおわり、元気に家に帰ってきた。そのときはとてもうれしくて、またお母さんといっしょにいられると思うのもっともつうれしくなった。お母さんはわたしにとってかけがえのないそんざいだと初めて思った。



## ぼくとひいおばあちゃん

広島市立己斐小学校 中村 雄登

ぼくには九十八さいのひいおばあちゃんがあります。三重県の施設に住んでいます。とても優しく、ぼくが産まれた時も、お世話に来てくれました。

今はコロナ禍でひいおばあちゃんと、なかなか会うことができません。

この間、三重県の施設に行つてひいおばあちゃんと会うことができました。しかし、コロナ禍なので、アクリル板ごしで、うまくコミュニケーションができませんでした。ぼくのことを「球児か？」と聞いてきました。コロナ禍で二年以上、会いたいけど、会えていなかったの、ぼくが球児おじさんと、まち

がえるほど背が高くなってしまったのです。ぼくは大きい声で、雄登だよ、と言っても、分からなかったの紙に自分の名前を書いて見せたけど、その紙をしまったら、すぐにぼくの名前をわすれてしまったようです。ひいおばあちゃんは、耳が遠くて、アクリル板ごしなので、紙に書いて、会話をしました。

ひいおばあちゃんは、ぼくのことをもう、わすれてしまったようだけど、ぼくはひいおばあちゃんのことを決して、わすれません。また会う日まで、しっかり生きてほしいと思います。



## お母さん、いつもありがとう

広島市立江波小学校 加藤 琉以

私は、お母さんにいつも感謝しています。かみを編んでくれたり、好きなところへつれていってくれたり。私のお母さんは世界で一番です。

悪さをしてしまったとき、すごく怒られます。わんわん泣いていました。ときには、「家を出ていきなさい！」といわれ、本当に家を出ていってしまい、家族を困らせたことも、ありました。でも、怒ることは自分をいい人に育てるためだと小学生になってから知りました。怒られたことは二度としていないことに気づき、お母さんのおかげだなあと思いました。

そして、たくさんいい言葉を教えてもらいました。「ありがとう」や「ごめんね」、「おしゃまします。」教えてもらったおかげで、友達がたくさんできました。ときどき悪い言葉を言うてしまうと注意してもらっているから、学校では、言っていません。

子供はみんなお母さんが大好き。いやなことがあっても、お母さんを見れば安心します。うそをついてもお母さんにはお見通しです。小さいときから、見守ってくれて、大切に育ててくれてありがとう。ずっと大好きだよ。

お母さん、いつもありがとう。



## 北九州のおばあちゃん

広島市立矢賀小学校 中野 真緒

二年前の十一月、私の祖父は亡くなりました。8月上旬に検査入院ですぐ退院するはずでした。検査入院の前夜に電話して話をしたのが声を聞いた最後でした。それから3ヶ月後に亡くなるなんて想像もつきませんでした。残されたおばあちゃんは、今まで二人で暮らしてきた家に一人ぼっちとなりました。さびしがり屋なので泣いてばかりで心配でした。けいたいをスマホにかえ、ビデオ通話できるように教えて、毎日、北九州と広島でのやりとりをしています。おばあちゃんがさびしくならぬようにお盆、正月は一緒にすごして、たくさんおしゃべりします。楽しかった

た分、別れる時はとても悲しくなります。おばあちゃんはいつも見送ってくれる時、目に涙をためています。おばあちゃんの住んでいる家を建て替えて一緒に住むつもりではいるけれど、いつになるか分かりません。おばあちゃんも体調が悪くなる時もあるようで自分で救急車を呼んで病院に搬送された事もありました。高齢の一人暮らしなので何が起こるか分かりません。仲の良い近所の人にも声をかけてさびしくないように見守ってもらっています。おばあちゃんが元気でいられるようにそばにいてたくさん笑わせてあげたいです。



## ぼくのやさしい弟

広島市立安東小学校 大久保 青

ぼくの弟は、ぼくにも、他の人達にも、やさしくしてくれる心の広い弟です。どういう時に、そう思ったかと、いうと、ぼくが泣いている時なぐさめに、きてくれたり、ティッシュを持ってきて、くれたりします。他には、お友達と、ケンカしたことがあります。いつも、ニコニコしています。かたづけも、手伝ってくれます。ぼくの、好きな、食べ物を、「半分こ」と、言って、分けて、くれます。いつもご飯をついでくれたりして、お手伝いを、しています。

弟は、さわやかと、いう支えん学級に、通っています。毎日、ぼくと、いっしょに、行っ

ています。弟が、一年生のころは、手を、引っぱって、登校して、いました。今は、一人で、歩いて、ついてきたり、ぬかすときがときどきあります。

ぼくの弟がやさしいから、周りの、人達もやさしく、してくれます。ぼくは、そんな、やさしい弟が、すごく大好きです。これからも兄弟仲良く、すごして、いきたいです。ときどきぼくと、ケンカは、するけれど。ぼくは、やさしい弟がいる兄弟で、よかったと、思いました。



## 家族の良い所

広島市立石内小学校 岡 陽奈乃

私には、とても自慢できる兄弟がいます。兄弟はそれぞれちがうスポーツに取り組んでいます。一番上の兄は、15才で家をはなれ野球のために寮に入りがんばっています。真ん中の姉も、同じく15才で家をはなれバレーボールで全国を目指してがんばっています。

兄は、人には優しく自分にはきびしく努力家です。人の良い所を見つけて尊重し優しく接する事ができます。また、自分にはきびしく目標に向けてコツコツ努力ができる人です。

姉は、私の事を思い、時にはきびしい事も言ってくれます。時には優しく私を引っ張ってくれます。また、チームがうまくいくように、

周りを見て率先して動き、チームのムードメーカーとしていつも笑顔でがんばっています。

こんなすてきな兄弟にめぐまれた私は、二人とはちがうスピードスケートをしています。競技はちがうけど二人の良い所を見習って、日本を背負えるすてきな選手になりたいです。

最後に、子ども達全員にやりたい事をやらせてくれ、お手伝いや応援をしてくれる両親にとっても感謝しています。これからも、兄弟三人でがんばりたいです。

家族のみんな、ありがとう。



## ごはんが楽しい家族

広島市立可部南小学校 中村 帆花

わたしの家は、お父さんとお母さんの休みの日が合わないの、なかなか家族がそろわないです。なので、ごはんを家族であまり食べれません。

家族そろってごはんを食べれるのは、週に一回か二回です。みんなで食べるごはんは、とても楽しいです。

お父さんは、ごはんをたくさん食べます。だから、いっしょに食べる時はごはんがなくなるうちに早くお皿にとらないといけなないので、とても大変です。そんな時にお母さんが

「何こずつ食べれるかのわり算は大切よ。わ

り算は、家族を平和にするね。」

と言って家族で笑ってます。

わたしの家族は、いっしょにごはんを食べたり、お出かけすることはなかなかないけど家族がそろった時は、みんなで楽しくごはんを食べてます。ときどきウッドデッキで焼き肉をすることもあります。この時は、愛犬ともいっしょです。外だと家とふんい気がちがうので楽しいです。

わたしの家族は、いっしょにごはんを食べることをとても大切にしています。これからも楽しくごはんを食べたいです。



## 命の大切さ

広島市立高須小学校 嶋田 和磨

みなさんは、家族の人が死んでしまったらどうしようと考えたことはありますか。

ぼくは一年前にその経験をしました。それは、ひいおばあちゃんがなくなりそうになったことです。ひいおばあちゃんはじんぞうが悪くなって入院しましたが、三か月たった時、集中治りょう室に入りました。でも、ひいおばあちゃんは「もう死んでもいいから、家に帰りたい。」と言って、点てきをつないだまま家に帰りました。ぼくはそのことを聞き、初めて「死んだらどうしよう」と思いました。

コロナで会いに行けなかったので、家族みんなて話し合っ、ぼくは手紙を書くことに

しました。お父さんだけお見まいに行ったけど、とてもしんどそうだったそうです。

しかしその後、みんなおどろいていたけど、家にもどってから少しずつ元気になっていきました。それも今では、車いすなしで歩けるようになっていきました。ひいおばあちゃんは、「あの手紙のおかげで元気になったよ、本当にありがとう。」と言ってくれました。

はじめて「家族が死ぬかもしれない」ということを経験して、家族の大切さが分かりました。コロナが終わったら、ひいおばあちゃんに会いに行きたいです。



## 親族みんなが待ち望んだ命

広島市立五日市南小学校 中村 海詞

にんしん中のおばがきん急入院したという知らせが入った。切ばく早産のおそれがあるという事だった。その日から三才のいとこはおばあちゃんちにあずけられた。コロナでお見まいにもなかなか行けずさびしく、イヤイヤと泣いていて祖父母も大変そうだった。

だから夏休みになって私たち三姉妹と一緒に遊んだり泊まりに来たりした。楽しい時間も多かったけど、夜泣きをして私もねむいのに起きて一緒にトイレに行ったりして子育ては大変なんだと体感した。

もしかしたらおなかの赤ちゃんは無事に生まれてこないかもしれないと聞いて毎日いと

こも私達も祖父母もみんなひいおじいちゃんのおだんにお祈りし続けた。

そして去年の9月にきせき的に生まれてきてくれました。本当にがんばって生まれてきてくれてありがとうと思いました。みんなとてもよろこんでいました。

もうすぐ一才になるとこはすくすく元気に育って笑顔がとても可愛いくて。親族みんなが協力して待ち望んだ命は私たちにパワーをくれてます。もうすぐたん生生日、みんなでお祝いするのが楽しみです。



## 頼れる妹、弟

広島市立宇品東小学校 下田 湊祐

ぼくには、妹と弟がいます。八さいの妹とは、よくしょうもないことでケンカをします。四さいの弟は、わがままで、うっとうしいと思うことがあります。

でも、一人で心細い時は、二人がいると、心強いです。例えば、おつかいにいくときです。一人でおつかいのときは、本当に買うものはこれでいいのかな、お金はこれでたりるのかな、たりなかったらどうしよう、などと弱気なことを考えてしまいます。けれど、二人がいれば、どうにでもなる！！と前向きに考えることができます。また、この夏休みに兄弟三人で電車に乗っておばあちゃんの家へ行

きました。正直、妹と電車でケンカしないかな、弟がわがままいわないかなと、とても不安でした。けれど電車にのれば、ケンカもせず、弟がわがまをいうこともありませんでした。弟がたいくつをしているときは、妹が話し相手になってくれました。電車をのりかえるときには、ホームはここで合っているのかな、と不安になったけれど、二人がいてくれて、一人じゃないと思ひ安心できました。

兄弟とはケンカもするし、うっとうしいと思うこともあるけれど、ぼくにとっては最強の味方です。



## 一番おちつく時間

広島市立毘沙門台小学校 椿 萌衣

わたしには、一番おちつく時間があります。それは、家族とその日あったことやうれしかったこと、いやだったことやびっくりしたことなどを話している時です。

わたしは家族であそびに行く機会が多いです。例えば、家族でよくキャンプに行きます。その時は、キャンプで何を食べるかや、何をしておそぶかなどを話し合います。また、よくスノーボードにも行くので、行く前は、どこに行くかや、どんなわざを練習するかなども話し合います。行った後は、楽しかったことやできるようになったことなどを話します。話している時、お父さんはアドバイスを

してくれたり、新しいことを教えてくれたりします。弟はよくおもしろいことを言ってみんなを笑わせてくれます。お母さんは、よかったところを言ってくれることが多いのでうれしくなります。わたしは、そういう時間が本当に楽しくて大好きです。

わたしにとって家族はとても大切なそんざいで、家族がいるから毎日安心して生活することができています。だからこそ、家族と話すときが落ちつく時間になるのだと思います。これからも、家族と話す時間を大切にしていきたいです。



## 家族みんなの幸せ

広島市立長束小学校 船越 美琴

わたしはおねえちゃんとお母さんといっしょにくらして、3人家族です。ある日わたしが小学生4年生の10月ごろ、お母さんがガンになってしまいました。お母さんがガンになったと知ったときは、家族3人みんなで大泣きしました。でも、お母さんはこうがんざいちしょうをうけて何回も苦しんでいたのずっとおねえちゃんとわたしを笑わせてくれていました。

そしてわたしは五年生になりました。わたしはもう五年生になって、高学年にもなったのでお母さんにおん返しをしたいと思いました。だからわたしは家族にながあっても必

ず家族みんなの幸せを優先して、毎日家族みんなが幸せになるように、みんなが笑顔になるように努力しました。

わたしはお母さんがガンになって、いやなことしかないと思っていたけど、自分はお母さんや、周りの人たちのおかげで自分だけが幸せだけではだめなんだ。みんなが幸せじゃなかったら自分は本当の幸せになれないと思いました。だからお母さんはどんなときもみんなを笑顔にしてくれていることに気づけました。



## 一つのランドセル

広島市立矢野小学校 伊勢岡 佑奈

私がようち園の年長のころ。小学校にせおつていくランドセルを買いに、ショッピングセンターに行ったときのことでした。

私は、ランドセルの色は茶色がいいと思っていました。しかし、両親は反対しました。私は母の仕事場で仕事がおわるのを待って、夜おそくに家に帰っていたので、茶色だと車からみえない、という理由でした。私は不満をかかえてピンクのランドセルを買いました。しばらくして、母と祖父の家にもかいました。ランドセルをもって、祖父の家につくと祖父はこういいました。

「がんばって働いたお金で買った物だ。大切に

使うんだよ。」祖父にそういわれて、不満はすぐなくなりました。祖父がたくさん働いてかせいだお金です。いやな気持ちで6年使うわけにはいけないと思いました。

だから、茶色でなくても大切なお金で買った物。6年生まで使い続けるランドセル。最近では、ランドセルを加工して大人になるまで使うこともできるそうです。自分だけの、たった一つのランドセルを使い続けることができます。私はこのランドセルを改めて、大切にしようと思いました。



## 生まれて初めての誕生日プレゼント

広島市立古市小学校 鄭 潤希

私には名前があります。私だけではなく、家族、友達、先生、また通りすがりの人達にも名前があります。多くの人達の名前が誰かにつけてもらったものだと思います。考えてくれた名前がその人の名前になり、気に入らなくても、そうかんたんに名前は変えることができません。

私がまだ園児だった頃、自分の名前が好きではありませんでした。私の名前は日本にはあまりいない名前に変に感じたからです。家族には良い名前だと言ってもらっても私は好きにはなれませんでした。

でも母が、今の名前に決まるまでの経緯を

教えてくれて考えが変わりました。言葉も漢字もこだわって、一生懸命考えてくれた名前をきらいにはなれず、それどころか自分の名前が好きになりました。

自分の名前は自分で決めることができませんが、他の誰かにつけてもらうことで感謝の気持ちをもつことができるようになりました。

母は「命をもらって次にもらうのは名前だから、名前は生まれて初めての誕生日プレゼントだよ。」と言っていました。私の名前は宝物です。

## 参加学校名

広島県モラロジー協議会が行いました「家族のきずな」エッセイ募集事業の目的にご賛同いただいた77校から、5492名のご応募をいただきました。

広島市立基町小学校  
広島市立袋町小学校  
広島市立千田小学校  
広島市立中島小学校  
広島市立広瀬小学校  
広島市立本川小学校  
広島市立舟入小学校  
広島市立江波小学校

広島市立牛田新町小学校  
広島市立牛田小学校  
広島市立矢賀小学校

広島市立荒神町小学校  
広島市立青崎小学校  
広島市立比治山小学校  
広島市立皆実小学校  
広島市立翠町小学校  
広島市立大河小学校  
広島市立黄金山小学校  
広島市立仁保小学校  
広島市立楠那小学校  
広島市立宇品東小学校  
広島市立宇品小学校  
広島市立向洋新町小学校

広島市立大芝小学校  
広島市立三篠小学校  
広島市立観音小学校  
広島市立己斐小学校  
広島市立古田小学校  
広島市立庚午小学校  
広島市立井口明神小学校  
広島市立高須小学校

広島市立緑井小学校  
広島市立中筋小学校  
広島市立古市小学校  
広島市立大町小学校  
広島市立毘沙門台小学校  
広島市立安東小学校  
広島市立祇園小学校  
広島市立山本小学校  
広島市立長束小学校  
広島市立原南小学校  
広島市立伴東小学校  
広島市立伴南小学校  
広島市立東野小学校  
広島市立春日野小学校

広島市立高南小学校  
広島市立三田小学校  
広島市立狩小川小学校  
広島市立深川小学校  
広島市立真亀小学校  
広島市立落合小学校  
広島市立口田東小学校  
広島市立三入小学校  
広島市立可部小学校  
広島市立可部南小学校  
広島市立飯室小学校  
広島市立筒瀬小学校  
広島市立日浦小学校

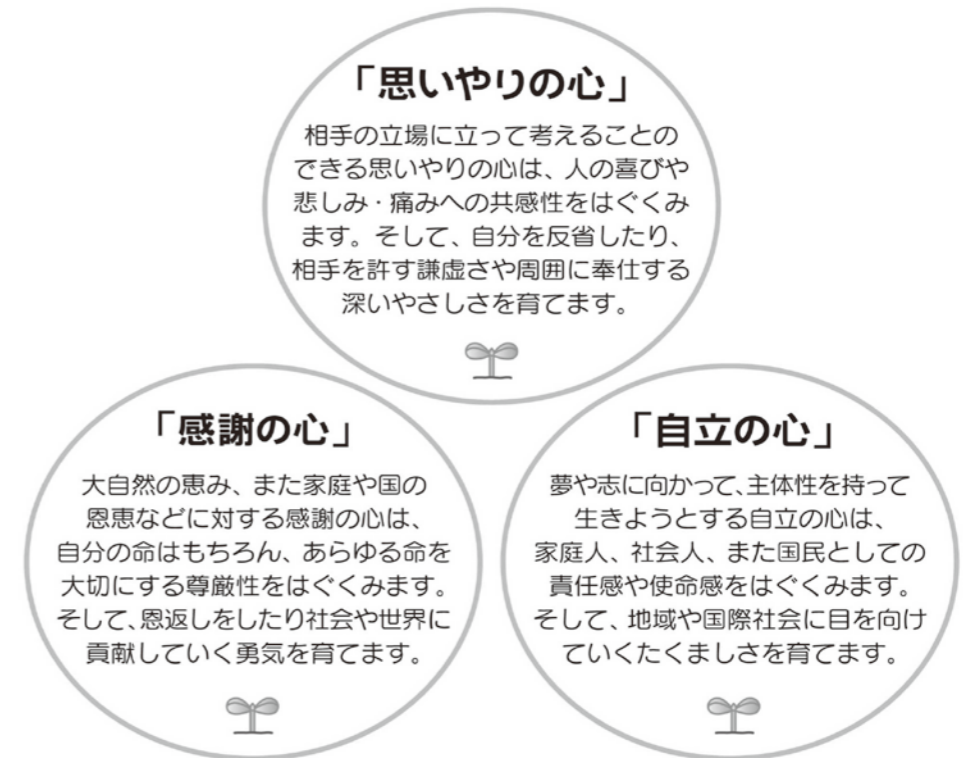
広島市立中野東小学校  
広島市立中野小学校  
広島市立畑賀小学校  
広島市立船越小学校  
広島市立矢野西小学校  
広島市立矢野小学校  
広島市立矢野南小学校  
広島市立みどり坂小学校

広島市立石内小学校  
広島市立河内小学校  
広島市立八幡東小学校  
広島市立五日市観音西小学校  
広島市立五日市観音小学校  
広島市立五日市中央小学校  
広島市立五日市小学校  
広島市立五日市南小学校  
広島市立楽々園小学校  
広島市立石内北小学校  
学校法人鶴学園なぎさ公園小学校

## モラロジーとは

### 道徳で人と社会を幸せに

モラロジー教育では「3つの心」を育てます。



### モラロジー(道徳科学)とは

モラロジー(Morality)は、「道徳」を表す(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

### 公益財団法人モラロジー道徳教育財団

公益財団法人モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と「心の生涯学習」を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年に法学博士・廣池千九郎が創立、以来一貫して人間性・道徳性を育てる研究事業、社会教育事業、社会教育活動事業、出版事業、助成事業を展開しています。

広島県モラロジー協議会は、

公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された団体です。  
よりよい社会づくりに貢献することを目的とした生涯学習活動を行っています。

IIS協同組合	有限会社ハーティ・フーズ
アクト中食株式会社	株式会社原本木材店
株式会社あじかん	株式会社ピーアンドピー
井辻食産株式会社	広島食肉市場株式会社
扇屋塗料株式会社	広島陸送株式会社
有限会社大方塗装	福留ハム株式会社
株式会社兼正冷熱工業	有限会社藤岡保険コンサルタント
カヤ工業株式会社	株式会社古昌
有限会社カワブ管財	株式会社文華堂
観音不動産株式会社	株式会社前田屋
共栄金属工業株式会社	有限会社マリンスター
京橋ユニオン	有限会社ミヤヤス
株式会社金融財務研究所	株式会社モーツアルト
株式会社サニクリーン中国	株式会社山貴
株式会社さんびる	株式会社山本製作所
ジャトー株式会社 中国営業所	山元勇治税理士事務所
株式会社橘運送店	吉田物産株式会社
中国倉庫運輸株式会社	

※50音順

広島東モラロジー事務所  
広島中央モラロジー事務所  
広島西部モラロジー事務所

広島安佐モラロジー事務所  
広島鯉城モラロジー事務所

秋本さおり	笹口 薫	林 和代
石田 直	笹長久恵	原本勝幸
和泉尚美	神手正栄	福原治彦
井上君枝	進藤郁朗	福原康彦
岩部通夫	鋤田晋二	藤田和広
宇恵清恵	須山健司	藤田恭子
植田富久美	高野正明	藤田誠一郎
大谷久美子	田上美津子	部谷佳子
大田英樹	高森溜美子	星野 勉
大坪房江	竹本祥士	松岡かずえ
大野宏子	橘 義昭	松岡與吉
沖本勝則	田中八代子	三戸雄二
折川享延	田能公敏	宮本伊知郎
金末謹三	茶木正雄	宮本美佐代
賀谷興典	茶木佳子	宮本善州
賀谷勝義	鉄村禮子	村上格郎
賀谷誠一	飛子和義	森田浩市
賀谷千文	富田逸司	森原敏行
川村雄二	中川 斎	森原ミルエ
川本 通	中島 章	森山和子
川本松夫	中島修治	藪本タツエ
久保 忠	中村光子	山根邦子
栗原良子	中村光宏	山本悦子
古城隆男	二井矢香	吉本 智
古城保男	畑 和宏	
後藤和夫	畑下義雄	
小山幸子	馬場伸之	
小山 勉	濱田典雅	
酒井秀樹	濱本郁子	
櫻井嘉治	濱本隆夫	

※50音順